［特別講演Ⅱ］

韓国医史学の歩みと展望

申　榮全
漢陽大学校 医科大学 予防医学教室／健康・社会研究所

1947年4月30日，韓国の大韓医史学会が誕生して，去年の2017年で70周年を迎えた．大韓医史学会は，第2次世界大戦が終わった直後，基礎医学の部門では4番目で設立された．当時，ソウル大学校大学院長のユン・イルソン（尹日善）の提案で，韓国最初の医史学者であるキム・ドゥジョン（金斗鍾），医史学に深い関心を示してきた韓国史学者であるイ・ビョンド（李丙燾），医学史の重要性を思い知っていた医学界の元老であるチェ・ドン（崔棟），イ・カプス（李甲洙），パク・ビョンレ（朴秉来），韓国の民俗学の開拓者であるソン・ソクハ（宋錫夏）などの7人が，発起人会兼創立総会を開き，前文5条と付則からなる会則を採択した．当時の会則は会員資格を医者に限定したが，1994年からは会員資格基準の制限をなくした．2018年現在，会員は約340人に達している．

大韓医史学会は創立初期からも学術大会，報告，講演，展覧会などを着実に行ってきた．1980年代末，学会の活動が低迷して危機に直面したが，1991年には学会の再建のための努力がはじまり，以後，2018年まで年間2回の総計54回の学術大会が欠かさず開催された．さらに，1993年から2016年まで総計43回の月例学術集会を開催している．2017年からは韓国歴史学会春季学術大会にも参加している．

創立以来45年間，独自の学会誌を出していなかったが，1992年末，創刊号「医史学」を出して以来，2002年には国際的な医学関連データベースであるメドライン（Medline）に登載されて，さらに2006年，韓国学術振興財団の登載誌として格上げされた．また2008年には，A&HCI（Arts and Humanities Citation Index）の登載誌として選定される喜びを味わった．現在，韓国で韓国語をつかってのせるA&HCIの登載誌は大韓医史学会の「医史学」が唯一である．2018年第27巻第2号まで総355の論文が発表された．

以前，断続的に大韓医史学会と日本，中国の医史学会との学術交流が行われてきたが，2016年からはイギリス医史学会と，2018年からは中国医史学会と，隔年に相互訪問し学会を開催している．

最近，大韓医史学会は，学術的にはより多くの医学歴史を発掘すると同時に，朝鮮半島の南北平和・交流の局面で，この70年間，断絶されてきた南と北の医学史をつなぎなおそうと試みている．さらに，医学史を歴史学の普遍史として統合する努力と同時に，朝鮮半島の医学史を世界医学史と統合していく作業に力を入れている．

また，韓国国内的には，医学部のカリキュラムに医学史が含まれるようになり，人文医学カリキュラムを開設して担当の専門教授を確保してこそ，定期的に行われる医学部評価でよい評価を得ることができるように制度化が決まった．これによって，医学史に対する研究や教育活動が多少活発になってきている．しかし，依然として一般医師が医学の歴史に触れる機会は多くなく，この問題を解決する方案に悩んでいる．医学史を専門的に研究する医師が少なく，医学史専門の医師の未来も不安定な問題を解決しなければならない課題を抱えている．最近，国家医師免許試験に人文学を含めようとする努力がはじまったが，この努力が叶えれば，医学史の発展に資するだろう．

韓国と日本は，長年ともに医学の歴史をつくってきた．それ故，互いの医学歴史の情報や研究経験を分かち合うことができれば，医学史の実体により近づいていく可能性がさらに大きくなると思う．

（日本語翻訳：イ・オンスク＝李彦叔）